

# 解説

附属幼稚園 佐藤寛子 教諭

## 5歳児の好奇心を高めるデジタル顕微鏡学生との交流により 育む園児の「創造的思考力」

コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授 下島泰子

幼稚園教育要領において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10項目挙げられており、その中の1つに「自然との関わり・生命の尊重」がある。5歳児は年長児であり、幼小の「架け橋期」に当たる。教育要領では「遊びの中で周囲の環境と関わる」こと、「物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程」が強調されており、環境との関わりによって「見る・知る」ことの重要性がくみ取れる。

また教育現場におけるICT活用については“Society 5.0”が目指す社会として「一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」が提唱されている。デジタル顕微鏡を活用した本実践は幼児の好奇心・探究心を掻き立てるものである。従来の顕微鏡との違いは焦点が合うまでの様子が映像で見られること、撮影ができることであるという。さらにその画像を友達や先生たちと共に見て分かち合うことで、「新しい考えを生み出す喜びや楽しさ」が生み出され「創造的思考力」へとつながっている。